

北海道産業貢献賞

<農業関係功労者>

▷菊地 博さん(65歳・成香)

昭和50年就農以来、有機物投入や緑肥用えん麦の輪作体系への導入など土づくりを先導。クリーン農産物研究会を立ち上げ、地力や農産物の食味向上に尽力しました。クリーン農業を推進し、とうや湖農業協同組合を青果物で全国初のGLOBAL G.A.P 団体認証取得につなげるなど全国の模範となる環境保全型農業実践地域の構築に寄与。地域農業・農村の振興に多大の貢献をしました。

菊地さんは「安全、安心なもの大切さが評価されたと思います。農産物の価値観を高めていくことが一層重要になってくる」とブランド力の必要性を強調しました。



北海道社会貢献賞

<交通安全功労者>

▷福田 保人さん(77歳・虻田6区)

平成11年から15年間にわたって、洞爺湖町交通安全指導員として、交通安全運動の推進や交通指導などの実践活動をしてきました。

平成13年から指導員理事として、指導員の育成にも力を注いでいます。

平成21年には、交通安全功労者として北海道知事感謝状を授与されました。



福田さんは「先輩方々のおかげで長く続けてこれました。

これからも体の続く限りがんばっていききたい」と受賞を喜んでいました。

虻田漁港整備の現場の皆さん 教育委員会に防災備蓄ベスト寄贈

(株)高橋建設の虻田漁港の基盤整備事業を手掛ける現場の代表者が、2月17日役場を訪れ、網嶋教育長に、防災備蓄ベスト100枚を寄贈しました。

同社は、清掃活動など社会貢献活動に力をいれており、その一環として、虻田漁港水産流通基盤整備工事外現場の皆さんが、防災教育に役立ててもらおうと寄付したものです。

同ベストは、災害時に必要情報をマジックなどで記入し、救助や支援がスムーズに行われるようにするものです。

網嶋教育長は「防災教育の中で、活用していきたい」と感謝の言葉を述べました。



網嶋教育長に備蓄ベストを手渡す森隆さん(右)と橋本大輔さん(中央)

平成26年度 胆振管内教育実践表彰

平成26年度胆振管内教育実践表彰を、縄文文化の普及啓もう活動を実践しているアプタフレナイの会(神馬久夫会長)が受賞しました。

2月25日には、教育長室で伝達式が行われ、篠原正行北海道教育庁胆振教育局局長から神馬会長に賞状が手渡されました。

胆振管内の学校教育又は社会教育で優れた実践活動を推進している団体や個人に贈られるもので、平成15年に結成してから、町内にある貴重な遺跡に対する町民への理解や古代文化を後世に伝え残す活動などが評価されました。

神馬会長は「地道な活動が認められて、会員一同喜びに堪えません。これから継続してがんばっていききたい」と受賞の喜びを話しました。



篠原胆振教育局局長から賞状を受ける神馬会長